

# 市議会だより

## 6月定例会

● 16人の議員が市政について質問しました。  
● 主な内容については次の通りです。

### 中村 健 議員

#### 選挙における投票率の向上について

**問** 投票所で配布される投票済証を協賛店舗に持参することで、各種の割引やサービスを受けられる、いわゆる「選挙セール」の実施を呼びかけませんか。

**答** 選挙が公平・公正で適正に行われるように事務を管理している選挙管理委員会としては、慎重に対応してまいりたいと思っています。

#### 公共交通の利用について

**問** くるりんバスの運行時間を通勤、通学にも利用しやすくしませんか。

**答** 今年度中に地域公共交通計画を策定する予定です。その中で、地域公共交通確保維持に向けた交通実態調査や市民及び利用者のニーズ調査により課題を抽出し、公共交通全般を見直していきます。

**問** 計画策定に当たっては、広く地域住民の皆さんの意見を聞くことになろうかと思えます。市が実施主体ではない名鉄電車や路線バスなども含め、現時点で把握している地域からの要望などがあればお聞かせください。

**答** 運行エリアの拡大としまして、安城市の「あんくるバス」への乗り継ぎ、安城更生病院に行つてほしい、旧町エリアへの展開などが寄せられています。バス停の配置では、尾花町から下永良町間のバス停間隔が近すぎるとか、薬局、郵便局に寄つてほしいなどの意見が寄せられています。

運行ダイヤでは、増便、電車との乗

継時間が合わない、運行時間の延長などが意見として寄せられています。

#### 西尾市の観光振興について

**問** 現在、西尾市歴史公園二之丸跡整備事業が行われています。城下町西尾のシンボルである西尾市歴史公園に、観光バスが駐車できる駐車場を整備しませんか。

**答** 敷地面積が狭いことや、北側県道との高低差が大きいためバスの床下が進入路面と接触するおそれがあるという点などから、非常に難しい状況です。したがって、現在と同様、文化会館北側の駐車場をご利用していただくのと考えています。

**問** 市内有数の集客力を誇る施設周辺に観光バスを停められる駐車場がないというのは、観光に力を入れているまちの考え方としては正直どうかと思います。この点について、どのように認識していますか。

**答** 歴史公園には、たくさんの方々に来ていただきたいと考えています。その条件としてバスの駐車場ということ

があります。今後、バスを使って見学に来ていただく方が増えるような施策があれば考えていきたいと思っています。

### 永山 英人 議員

#### 期日前投票所の問題について

**問** 投票者数に占める期日前投票者数の割合が、合併後、2回の選挙では、旧幡豆町と旧西尾市の平均で2・18倍と2・29倍もの格差があり、選挙権の行使に不平等はありませんか。

**答** 2・29倍あることは、期日前投票所までの距離が影響していることは否めないと思っています。しかし、当日投票に出掛けていただいた方が多く、投票率は高くなったので、不平等があるとは考えておりません。

**問** 合併後初の市長選挙で、市長は期日前投票所の問題に対し旧幡豆郡の有権者の反応をどう受け止められましたか。

**答** 旧3町の皆様の、ご指摘をいただいたような批判票が確かにあったと感じたところです。私は、正直に努力する人が報われる公正な社会をつくりたいと考えています。一步一步地道に市民の皆さんと共に、この西尾市を良くしていきたいと思っています。

**問** 期日前投票所は、旧3町だけの問題とせず市内全体を通して再配置を検討すべきだと思えますがどうですか。

**答** 現在選挙を執行する上で投票区における有権者数の差の問題、投票施設の問題格差の問題などもあることから、期日前投票所の配置につきまして、今後必要であればこれらの諸問題と併せて、総合的に検討を行うことも一つの選択肢だと思えます。

幼稚園保育給食費無料化について

**問** 市長は、給食費無料化を公約されましたが、目的は何ですか。

**答** 無料化することで子育て家庭に対する経済的な負担を減らし、「子どもを育てやすいまちづくり」を推進したいとの思いからです。

**問** 無料化を単なる経済的な負担の軽減という狭い意味に捉えず、市外からの定住を期待する施策と考えてよいのではないですか。

**答** 市外からの子育て世代の定住促進も大いに期待するところであります。

**問** 市民へ財源の説明をする責務があると思えますがどうですか。

**答** 一般財政は限られた予算であり、事業の優先順位に従って配分が行われることとなります。市長公約は、最優先的に配分される事業であると考

います。

**問** 市内には私立幼稚園があり、官とのバランスが必要だと思えますがどうですか。

**答** 公立園だけでなく私立保育園や私立幼稚園なども含め検討していきます。



工藤 光雄 議員

市長の市政運営方針について

**問** 今後4年間の市政運営と西尾市再生に向けた、市長の強い思いや公約をやり切る覚悟はいかがですか。

**答** 新西尾市の将来像と新たな可能性を示し、次のステップの礎づくりを前進させ、初心を忘れずに、地道に愚直に徹底的に取り組みます。

**問** 「西尾市農業副都心構想」の施設全体イメージと西尾流の第6次産業化とはどのようなことですか。

**答** 西尾市第7次総合計画にある「見る・遊ぶ・食べる・買う」を地区内で完結できる施設を整備し、地域ブランドを中心に農畜産物や水産物の加工施設を整備します。地産地消の農家レストランを初め、市内第2の「道の駅」として整備し、産直野菜の販売や加工食品製造体験等ができる施設の整備を考えており、市長任期中には、くわ入れできるようスピード感を持って推進します。

**問** 幼稚園・保育園の給食費の無料化を実施する公約に対する市長の思いはどのようなことか。

**答** 子育てに不安のある社会で、子育て家庭への経済的負担を軽減し、安心して子育てできるまちづくりの一助になると考えました。

防犯・防災対策について

**問** 長期的にはLED防犯灯が環境負荷や維持管理費が少ないため、順次LEDに切り替えませんか。

**答** 電気料が蛍光灯の約半分、10年程度取替不要であり、町内会長にはLED防犯灯を推奨しています。

**問** 国は地方公共団体に対し、防災・減災対策事業の財源確保のために市職員の給与削減を要請しているが、市の考え方はどうですか。

**答** 西尾市は、合併後2年間で約13億7千万円の人件費を削減しています。個々の職員の給与削減ではなく、合併という手法で総人件費を削減し、防災・減災対策を強力に推進しており、国の要請は見送っています。

**問** 防災情報専用のQRコードを作成し、公共施設や標高表示板等に貼り付けて防災情報を発信しませんか。

**答** 今後、積極的に研究します。

**問** 「築山(つきやま)」とか「命山(いのちやま)」等の名称で知られる人工の山で、平常時は公園等で利用できる緊急避難場所を一色町等のゼロメートル地帯に整備しませんか。

**答** 景観にも配慮でき有効な手段と考えられますので、愛知県被害想定結果を踏まえて、詳細に検討すべき材料の一つとしていきます。



前田 修 議員

市長の政治姿勢について

**問** 市長選の結果、榊原市長の得票率は36%で有権者全体では4人に1人しか支持されていません。結果をどう受けとめますか。

**答** 真摯に受けとめます。「合併で住みにくくなった」とのアンケート回答もあり、どのような問題があるか精査し、できることを見きわめていきます。

**問** 旧3町や寺津・福地・米津などでは、くるりんバスの運行を求める声は大きくなっています。現在のデマンドタクシーは、あくまで補完的な手法であり、くるりんバスや地域にあったミニバス方式を基本に検討しませんか。

**答** 拠点となる駅を中心に、くるりんバスや小型化のものを走らせることも検討の中に入れていと考えています。

**問** 他の市長候補から「議会がなれ合いだ」と指摘されています。議会の一般質問が、議員も答弁者も原稿を読みあうだけで芝居のようであったり、予算・決算の議員の質疑項目を課長が準備するようなことはやめるべきではありませんか。

**答** なれ合いということ、今後なくしていく必要があると思っています。

**問** 旧3町の保育園給食は、センター方式であることから、アレルギー対応食などで、旧西尾市の自園方式より劣っています。旧3町も給食の自園化を進め公平にすべきではありませんか。

**答** 総合的な検討もしながら引き続き考えていきます。

佐久島の渡船料引き下げを

**問** 佐久島の渡船料金の高齢者割引は考えていないようですが、全ての島民料金の引き下げと自転車運賃の引き下げを考えませんか。

**答** 消費税率改定の際、島民の渡船料・自転車運賃も含め引き下げについて検討したいと考えています。

**問** 佐久島の高校生の下宿代に助成しませんか。

**答** 離島高校生就学支援費として補助をしています。

津波・防災対策を

**問** 大地震の際、狭い地域の老朽化した空き家が崩壊し道路を封鎖することが問題視されています。蒲郡市などの市独自の条例で対策を講じませんか。

**答** 近隣市を参考に研究を進めてまいりたいと考えています。

**問** 沿岸部の4割の地区で、いまだに津波一時待避所が決まっています。校舎屋上の手すり設置や民間ビルを待避所に指定するなどの対策をさらに強めることが必要ではありませんか。

**答** 今後、県の浸水想定が拡大する可能性もあります。地域の要望も聞き、避難先の指定も逐次、進めます。

鈴木 規子 議員

大規模災害、小学校区ごとに耐震性貯水槽の確保を

**問** 南海トラフ巨大地震の被害想定は従前を大きく上回ります。多量の飲料水を速やかに供給できる「加圧式応急給水車」を配備するべきではありませんか。現在、本市では0.5トンのタンク車1台しかありません。

**答** 耐震性貯水槽の配備を優先します。給水車については、これから他市の状況を調査します。

**問** 安城市では2トン車2台、刈谷市3台、岡崎も2トン、3トン各1台と、西三河の各市とも加圧式給水車を持ち、東日本大震災では給水支援に行っていた



牧之原市に配備された加圧式給水車  
加圧ポンプを装備した給水車で、公共施設や病院などに設置された受水槽への補給や、災害時の応急給水用のポリタンク、給水バックへの給水も短時間に効率的に行うことができる車両

**答** 市長はご存知ですか。知りません。

**問** 耐震性貯水槽は各小学校区に1基ずつ、また市役所、市民病院にも設置するべきではありませんか

**答** 2022年を目標に16基を配備していく予定ですが、今後、全体計画については見直しが必要だと思います。

**問** 国は、各家庭での備蓄を3日分から7日分に増やすよう変更しましたが、町内会にも備蓄を呼びかけてはどうですか。いざという時、町内会長さんの判断で配れるものがあればパニック防止にもなるのではありませんか。

**答** 積極的にお願いしていきたいと思えます。

**西尾大規模災害、避難所は大丈夫か**

**問** 現在、54の避難所がありますが、小中学校体育館は天井崩落の危険が指摘されています。東部中学校、西尾中学校、一色南部小学校など、古い施設は10か所以上あり、避難見込み数は3千人に及んでいます。最優先で改修していくべきではありませんか。

**答** 現在、現状を調査中です。年に2、3校ずつ改修していく予定です。

**問** 沿岸部の学校の屋上には手すりを設置してきましたが、どの程度の人員を収容できるのですか。

**答** 避難できる最大人員は一色東部小学校、荻原小学校で各2千280人、吉田小学校2千880人、白浜小学校3千160人ですが、これは子どもでの換算値です。避難は、これまで通りできる限り遠くへ逃げる率先避難が基本です。手すりがあれば安心と率先避難を忘れてしまう方が怖いのです。今後、

避難計画の見直しのなかで、しっかりと誘導していきます。

**稲垣 一夫 議員**

**公共施設再配置について**

**問** 公共施設の再配置実施計画の進捗状況と今後の取り組みはどのようですか。

**答** 平成26年度から平成30年度の5か年を実施期間とする公共施設再配置実施計画の策定を現在進めています。この実施計画には、昨年度実施した公共施設の劣化調査及び健全度判定の調査結果とPFIの実現可能性検討調査結果を反映していきます。

今後は、安全性、老朽化、利用率などの課題のある施設を中心とした、公共施設再配置プランを公共施設実施計画の素案としてまとめ、本年度末までに成案として実施計画を策定します。

**問** 吉良地区の安全性などに問題のある施設についてどのように考えていますか。

**答** 吉良地区の公共施設の公共施設再配置を進めるにあたり、安全性に問題のある施設は最優先に検討すべきであると考えておりまして、早急に施設のあり方について方針を出すべきと考え

ています。どの小中学校でも学校保健委員会を中心に、家庭・地域との連携によって、子どもの健全育成に努めています。

**名鉄西尾・蒲郡線について**

**問** 利用促進策をどのように取り組めますか。

**答** 今年3月に策定した名鉄西尾・蒲郡線利用促進重点目標では「西尾・蒲郡線における通勤定期及び定期外利用者の増加」と「蒲郡線区間における利用促進策の展開」の2項目を利用促進の重点項目とし、関係団体や市民団体と力を合わせて沿線の活性化を推進します。



**問** 市は、名鉄西尾・蒲郡線の意義をどのように考え、将来に向かっての方策をどのように取り組みますか。

**答** 名鉄西尾・蒲郡線を道路と同様の西三河地域南部の重要な社会基盤として捉え、今後も引き続き、名鉄西尾・蒲郡線を将来にわたり、鉄道として維持していくために、行政、地域住民、経済界、名鉄等がそれぞれ行っている取り組みを連携、充実させ、総ぐるみで利用促進・沿線の活性化を図っていきます。

**問** 吉良地区の公共施設再配置はどのようですか。

**答** 吉良地区の公共施設再配置は、公共施設を集約化して多機能化を図り、ヒト・モノ・情報が集まる、より良い環境とすることを考えています。施設の集約化・多機能化をする場合は、低コストかつ良質な公共サービスが期待できるPFIの活用を検討しています。

**大塚久美子 議員**

**防災・減災の推進、福祉避難所の取り組みについて**

**問** 福祉避難所への要援護者支援の地域の取り組み、ボランティアの確保、



要援護者のための備蓄品など、十分に供給できる体制を整備しませんか。

答 市と社会福祉協議会が共同でボランティアの調整、確保をします。備蓄品については、今後、施設の備蓄品の調査を行い、現状把握していきます。

問 福祉避難所では、施設利用者の方の3日分の備蓄しかないのが現状です。要援護者のために、食糧、介護用品や衛生用品、医療品など、締結先での一週間分の備蓄品を市で準備しませんか。

答 保管スペースの問題、輸送手段の問題もあるため、今後協定締結先事業所等と話し合い、施設内備蓄を検討していきます。

問 地域の支援者の方を主体に、総合防災訓練に要援護者の方に参加していただく訓練や、セミナーを開催するなどの取り組みをしませんか。

答 地域の自主防災会、町内会に呼び掛けるとともに、防災セミナーのテーマとして取り上げていきたいと思えます。

問 防災会議への女性委員の増員をしませんか。

答 多様な意見を反映できるように、総合的に判断して登用していきます。

地方版子ども子育て会議の取り組みについて

問 子ども子育て会議委員の人選については、地域の子も及び子育て家庭の実情を踏まえて、子育て当事者を参画させませんか。

答 平成26年度に子ども子育て支援事業計画を策定するに当たり、子育て当事者の参画に配慮し、意見等を計画に反映させていきたいと思えます。

資源ごみ持ち去り行為禁止条例の制定について

問 全国的にも資源ごみ持ち去りの問題が発生していて、近隣市町でも資源物の持ち去り行為を禁止する条例、な

いし制定に向けた取り組みが行われています。一方、規制のかけられない市町村では、持ち去り行為の増加が懸念されています。資源循環型社会の形成、廃棄物の適正処理、市民生活の安全・安心を守るため、資源物持ち去り禁止条例を制定しませんか。

答 持ち去り行為の事前の予防対策として、資源ごみ持ち去り禁止条例の制定を検討しています。年度内のできるだけ早い時期に制定し、十分な周知期間を経て施行していきます。

本郷 昭代 議員

ごみ減量について

問 合併して3年目の現在も家庭ごみの分け方・出し方ガイドブックは4冊に分かれています。今後、一つの市として統一しませんか。

答 平成24年3月に作成したガイドブックは、旧市町ごとの4種類に分かれています。理由は、いくつかの点で分別・排出方法が統一できていないため。今後、早い時期に分別・排出方法を統一して、一冊のガイドブックにできるように努力していきます。

問 旧西尾市の燃えないごみの収集を、指定袋から旧幡豆郡内で行っているコ

ンテナによる収集に変更しませんか。

答 旧西尾地区をコンテナ方式に変更するには、西尾地区10万人の理解と協力が不可欠となります。また、不燃ごみステーション、または資源ごみステーションの一角に回収用コンテナを追加配置する必要があり、ステーションの数、設置場所の確保等解決すべき困難な問題がいくつかあります。現在、これらの問題を一つ一つ解決し、コンテナ方式への統一に向けた調査・検討を着実に進めています。

公共交通システムについて

問 現在運行している六万石くるりんバスとデマンド型乗合タクシー「こまいかー」の利用状況はいかがですか。

答 くるりんバスの利用状況は、平成24年度の事業実績で、市街地線が3万2千441人、東回り線が2万8千257人、西回り線が3万2千801人の合計9万3千499人。「こまいかー」は、昨年10月から運行を開始し、今年の3月までで309人の利用でした。

問 くるりんバスとデマンド型タクシーそれぞれの利用者1人当たりにかかる経費はいくらですか。また、ふれんどバスなどの他のバス事業補助金を利用者1人当たり換算するといくらですか。

**問** くるりんバスは、利用者1人当たり384円。「いこまいカー」は、利用者から300円の利用料、市からは500円の委託料で運行しています。また、ふれんどバスでは、178円、名鉄東部交通による路線バスでは75円です。

**問** 合併して広範な全地域を公共交通が網羅するのは難しいと思いますが、市として公共交通システムがどのようなべきと考えますか。

**答** 現在「西尾市地域公共交通計画」を策定中で、西尾市公共交通の基本方針を考えると、既存の公共交通であるバスやタクシーの領域は侵さないようにしつつ、最低限確保すべき交通サービスとして、毎日の買い物や病院等へ通院する移動手段の確保は、交通弱者にとって大変重要であると考えています。今後も人口減少や高齢化社会の進展に対し、地域公共交通が「健康」「医療」「福祉」施策と連携できるような交通網が理想であると考えています。

松井晋一郎 議員

防災対策について

**問** 一時待避所、一次避難所、同じく二次避難所、そして福祉避難所と、災

害時の各避難対象施設の名称と用途について、市民への周知が必要ではないですか。

**答** いろいろな専門用語があり、より分かりやすい表現や施設の用途に合わせた説明を加えるなど、工夫をしていきます。

**問** 沿岸地域の町内会や学校で、避難訓練や災害備蓄品の準備、その他独自の緊急対応方法の検討が行われていますが、そのような取り組みに対して支援しませんか。

**答** 頑張っている地域には、行政としてできる限りの支援をします。

佐久島の諸問題について

**問** 渡船は島民の唯一の交通手段です。公共交通の観点から、島民の渡船料金を一般渡船料金の半額も視野に入れ、引き下げを検討しませんか。

**答** 消費税率の引き上げに合わせ全体の見直しを検討する中で、島民割引については、国が示す陸上公共交通機関との運賃比較を参考にしていきます。

**問** 「観光都市にしお」を目指す上で、官民協働の姿勢、住民一人一人の意識づくりが大切です。市の目指す未来の佐久島のビジョンは、佐久島観光協会や関係する団体の皆さんと共有できていますか。

**答** 今年度策定中の西尾市観光基本計画には、佐久島観光協会の会長がメンバーに入っており、意見は十分反映できると思っています。

**問** 島内のインターネット環境が大幅に改善されると聞いております。佐久島振興にどのように活かすことが期待できますか。

**答** 愛知県を通じてNTTドコモと交渉した結果、今年9月を目標にLTE(Long Term Evolution)／新たな携帯電話の通信規格が提供されることになりました。これによりインターネットを通じて仕事をされる方の定住の後押しや、民宿などの観光事業者による活用が期待できます。



平成25年2月に就航した第3さちかぜ

高須 一弘 議員

沿岸部ゼロメートル地帯の地震津波対策について

**問** 中長期的地震津波対策として、次の世代に安心安全な西尾市を引き継ぐには、名浜道路の実現こそが必要不可欠と考えるいかがですか。

**答** 今後想定される大地震に伴う災害時には緊急輸送道路、避難路として、減災機能も有する「命の道」として新に必要な道路と考えています。

**問** 早期に実施すべき地震津波対策として、一色東部地区など避難所が極端に少ない地区に公民館兼用の3階建て避難所を建築するため国や県の補助制度を最大限活用しませんか。

**答** 社会資本整備総合交付金を活用して東海市で集会所と兼用の避難所を設置した例があり、各小学校単位にて検討していきます。

**問** 実態を直視した地震津波対策である、耐震堤防工事の進捗状況と今後の工事計画はどのようですか。

**答** 耐震化率は平成24年度末で80%。26年度末で工事完了が目標です。

**問** マグニチュード9クラスの地震津波が発生した場合、これに耐え得られますか。

**答** 愛知県施工の耐震堤防は、想定される最大震度、液状化、津波高に耐えられるものと聞いています。

**問** 本年、伊良湖沖25キロの伊勢湾口に設置された波浪計は津波を感じた場合、名古屋港到達90分前に通知されると聞きます。本市に第1報が届くのは津波到達何分前ですか。

**答** 試験運用中のため当分本市に情報は届きません。

**問** 沿岸部の自治体には優先的に情報が届くよう、至急に働きかける必要があると思うがいかがですか。

**答** 今後早急に津波情報が届くよう、関係機関に働きかけていきます。



神谷 雅章 議員

合併3年目を迎えた「新しい西尾市」について

**問** 各地区(旧一市三町)が調和のとれた発展をすることが、「新しい西尾市」にとって必要不可欠だと思いますが、どのように考えていますか。

**答** 旧市町の各地域がそれぞれのよさを生かしながらバランスよく発展することは大変重要であると認識しています。さらに地域間の連携を図り「融和と協働」を進めることで、「力強い新しい西尾市」をつくっていくことができると考えています。

**問** 支所機能を充実し、市民サービスの向上と各地区の活性化を図りませんか。

**答** 合併協議の考え方に基づきまして本庁との連携強化を図りながら、施設の複合化、多機能化を進める公共施設再配置実施計画の推進と併せて、地域住民に対する一層のサービスの向上と地域の活性化に努めていきます。

**問** 支所への予算配分ですが、支所区域内の市民の要望にすぐに対応できるように、道路等の維持管理を初めとす

る予算を支所にも配分し、サービスの向上を図ることはできませんか。

**答** 道路等の維持管理につきましては、支所担当者が現場確認を行い、支所担当者の判断で対処しています。

**問** 町内会、コミュニティ、子ども会、老人会などの各種団体の活動について、各地区の状況を把握していますか。

**答** 町内会、コミュニティの組織を例に申しあげると、多くの住民が参加。参画され、地域の連帯感を深め、地域のよいものは残すといった地域性のある活動に取り組んでいます。市としてもコミュニティの推進にあたっては旧吉良町方式を取り入れるなど「新しい西尾市」において良いものは取り入れる方針です。各担当部局でも各団体の意見を聞きつつ、融和を図り、地域性のある活動に取り組んでいきます。

**問** 各地区でいろいろなイベントや伝統文化行事が繰り広げられています。元気なまち西尾を目指したまちづくりのため各行事を把握し、支援しませんか。

**答** 「元気なまち西尾」実現のため今後、事業実施団体の自主性を尊重し、民間活力を引き出すよう支援をします。

**問** 公共施設使用料金について、各種団体・イベント・伝統行事は、もちろ

ん文化協会・体育協会主催の大会についても免除しませんか。また、今年度60周年記念事業になっている行事についても使用料を課せられますか。

**答** 生涯学習事業・体育協会が主催する競技大会などに限り、その使用料の全部または一部を減免しています。

山田 高生 議員

西尾市憩の農園周辺整備と農業副都心構想について

**問** 西尾市憩の農園周辺地域を西尾市南部の中心地域となるよう整備しませんか。

**答** 農畜産業、水産業の6次産業化を進めるための中核施設を建設します。農業以外の開発は考えていません。

**問** 以前に同様の計画がありました。その計画との関連性はどのようですか。

**答** 西尾市農業副都心構想は新たな福地南部地域の開発計画です。

**問** 計画の規模はどれほどで、どのような施設ができますか。

**答** 「見る・遊ぶ・食べる・買う」が完結できる施設。具体的には農畜産物や水産物の加工施設の見学、製造体験、農家レストラン、観光農園、バーベ

ユー施設、産直野菜の販売、道の駅等の施設を今後設置する建設委員会、建設部会で決定していきます。

**問** 名鉄西尾・蒲郡線を今回の開発に含めて検討し、新駅、バスターミナル、駐車場などを建設し、西尾市南部地域の交通の拠点にしませんか。

**答** 建設委員会、建設部会で検討しますが、名鉄の動向や全体計画が整備された後、利用状況を判断して検討します。

### 市有施設の屋根貸しによる 太陽光発電事業について

**問** 避難場所である小学校の屋上に太陽光発電を設置する場合、今後の防災計画見直しによって屋上利用が必要になった場合に備え、背丈以上の架台などの上に設置し十分な避難スペースを確保しておきませんか。

**答** 太陽光発電パネルは屋根防水工事等のメンテナンススペースを確保して設置することになっていきますので、万一の場合には一時的に避難することが可能です。

### 次世代産業の育成について

**問** 次世代産業の育成として、蒲郡市はメタンハイドロレートの調査船、荷揚

げ施設の誘致を勧めていると聞きますが、本市も隣接する幡豆地域にメタンハイドレート利用施設や発電所などの誘致を検討しませんか。

**答** 独立行政法人石油天然ガス金属鉱物資源機構が本年1月から渥美半島沖で試掘しメタンガスの試験採取に世界で初めて成功しました。国産エネルギーとして大きな期待がありますので新たな産業創出に向け、動向を注視していきます。

### 徳倉 正美 議員

### 南海トラフ地震に対する 防災対策について

**問** 県が今年の5月に発表した南海トラフ地震想定では、本市で1千800人が死亡し、建物は市内全体の4割近い2万9千棟が全壊、焼失するとのこと。

この2万9千棟の建物が全壊、焼失するとの想定を受け、どのような対策が必要と考えていますか。

**答** 市としては住宅の耐震化が最も必要と考え、木造住宅の無料耐震診断や耐震化に補助制度を設けています。また火災による焼失も、5千900棟と多いので、市民一人一人が初期消火や防火活動ができるように啓発・支援を

進める必要があると考えています。

**問** 1千800人の死者数の想定を受け、どのような対策を検討していますか。

**答** 想定死者数は建物倒壊等で1千400人、火災によるものが300人、津波浸水によるものが100人となっています。住宅診断ローラー作戦などを強力に押し進めるほか、多様な手段による啓発が必要と認識しています。

**問** 矢作古川両岸の吉良町大島地区と一色町松木島地区では、津波の浸水被害が特に大きいとされています。津波の浸水エリア内には、全て待避所が指定されているとのことですが、

一色地区の国道以南で一色漁港と矢作古川の間地域、そして、吉良地区の国道以南で矢作古川と矢崎川の間地域には、津波の待避所がない空白地域となっています。この地域の住民は、「どこへ逃げればいいのか」と不安を抱いています。市長はどのように受け止めていますか。

**答** 住民の方のご心配はもともと私どもも認識しています。

**問** 津波の浸水による被害者は1000人と想定されていますが、この矢作古川両岸の2地区が、最も被害に遭う危険性が高いのではないですか。

**答** 100人の犠牲者の内訳は、自力脱出困難が約60人、逃げ遅れが約60人

と発表されています。家具を固定したり、隣家との声かけや協力体制ができれば、死者は限りなくゼロに近づけるものと考えています。

**問** 海抜ゼロメートル地帯は防潮堤で守られ、浸水被害はほとんど無いとされています。しかし、東海地方のゼロメートル地帯は、伊勢湾台風当時から1.5倍に拡大しているほか、防潮堤は沈下し、老朽化も進んでいるので、犠牲者が最悪1万人増える可能性がある」と指摘する声もあります。これに対し、市長はどのように考えますか。

**答** 現在、引き続き被害想定検討が加えられているので、その動向を注視していきます。校舎屋上の手すりの設置や体育館の耐震化などを早急に始め、一人の被害者も出さない覚悟で取り組んでいきます。

### 鈴木 正章 議員

### 農業副都心構想について

**問** 農業副都心構想の整備の進め方及び参考モデルはどのようなですか。

**答** 全体の整備地域の範囲、施設内容をまとめ、2ヘクタール未満に細分化して整備します。モデルは大府市の「げんきの郷」です。

**問** 事業運営の手法はどのようなのですか。  
**答** 加工施設、農家レストランは「民」農村公園、市民農園は「官」、道の駅、直売所は「第三セクター」もしくは委託による管理・運営です。

**問** 市外よりの来客者のための道路整備をどのように考えていますか。  
**答** 県道衣浦蒲郡線より南側道路を優先し、名鉄西尾線を超える北側道路は南側道路の整備後となります。

**問** 事業全体を統一的にアドバイスできる専門家を登用しませんか。  
**答** スピード感を持って進めるのに必要と考えます。早い機会にお願いする計画でいます。

安全で安心して暮らせる  
まちづくりについて

**問** 都市計画道路の計画見直しの考え方はどのようなのですか。  
**答** 愛知県が定めた「都市計画道路見直しの指針」に基づき必要に応じて、地域の方々の合意で検討を進めます。

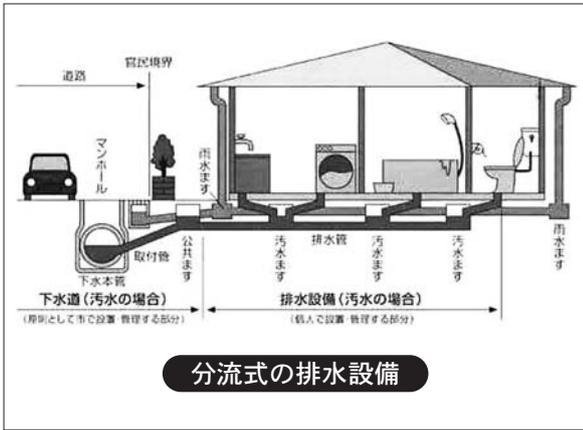
**問** 西尾市の侵入盗の被害状況はどのようなのですか。  
**答** 平成25年5月末現在で、空き巣被害は県下ワーストワン、地区別では吉良中学校区が一番です。「自分の安全は自分で守る」を基本に、地域連携での

継続した防犯活動に取り組みます。

**問** 防犯・防火対策として、「空き家、空き地、耕作放棄地」等を包括した仕組みづくりを考えませんか。  
**答** 火災予防、防犯、防犯、環境整備等多岐に亘り、今後、関係部局で調査研究します。

**問** 下水道の供用開始1年経過後の接続していない実態はどのようなのですか。  
**答** 公共下水道で17・9%、農業集落排水で7・5%接続していません。

**問** 接続率の向上のため全国での「取組事例集」を参考に取組みませんか。  
**答** 日本下水道協会の事例集を参考に取組んでいきます。



大河内博之 議員

**問** 文部科学省は、「学校施設のつり天井の原則撤去」の方針を表明しましたが、当市の状況はどのようなのですか。  
**答** 該当施設は18校で、平成27年度以降計画的に行います。

**問** 学校の非構造部材（照明器具、窓ガラス）の耐震工事の実施計画はどのようなのですか。  
**答** 平成27年度より毎年2校程度の工事を計画しています。

安全な通学路確保のための  
改善の推進について

**問** 通学路安全対策協議会を設置し保護者や児童生徒に通学路の危険個所などのアンケート調査を実施しませんか。  
**答** 日ごろから子どもや保護者、地域の方の協力により細かい状況の把握に努めています。特に小学校では、いろいろな学校行事を利用し通学路の点検をしながら親子登下校を実施しているところもあります。今後も、各学校の

実態に応じて子どもたちの安全を守るための取り組みを進めていきます。

**問** 登下校中に落雷や豪雨など天候が急変した場合、子どもが緊急避難でき

る場所を確保、周知徹底する必要がありますが、どのように考えていますか。  
**答** 各地で落雷やゲリラ豪雨などの天候異変による被害が発生しています。子どもたちへの指導を、まず優先しますが、状況に応じては、例えば子ども110番の家なども含めて緊急に避難できる場所が確保できるように、周知していきます。

**問** ゾーン30の提案をさせていただきま。本市では鶴城小学校の周りで実施されていますが、ドライバーに注意喚起するため、カラー舗装や看板を設置するなどして周知徹底しませんか。  
**答** ゾーン30につきましては住んでいる方も規制の対象となるのでなかなか地域の理解が得られないというのが現状です。地域の方から子どもたちの安全のために必要だという要望があれば、警察の方と協議をしていきます。カラー舗装につきましては、積極的に進めています。学校、地域等からご要望をいただければ、できることからやっていきます。

防災・減災の推進について

**問** 防災意識を高めるといふ意味で地震の時に一旦は逃げ、助かった人が、家族や友人知人を助けに戻り、犠牲になつてしまうピックアップ行動阻止連絡協議会などを立ち上げ、周知徹底を

**議会改革検討委員会を設置しました。**

西尾市議会は、市民の代表として西尾市全体を考慮した視点から意思決定するとともに、身近で開かれた議会や、民意や衆知を集め行動する議会の実現を目指して、議会改革検討委員会を設置しました。

また、委員会の下部組織として、議会機能改革検討部会、議員能力改革検討部会、住民参加改革検討部会を設置し、議会改革に向けて協議検討していきます。

【設置日】平成 25 年 6 月 24 日

○各部会の検討項目（抜粋）

【議会機能改革検討部会】

- ・閉会中の文書質問の実施
- ・執行部への反問権の付与
- ・議決すべき事項の制定など

【議員能力改革検討部会】

- ・個別議案に関する各議員の態度や姿勢の公表
- ・政務活動費での活動の報告義務の設定
- ・議員研修会の充実、実施など

【住民参加改革検討部会】

- ・本会議や各種委員会、協議会等の原則公開
- ・市民アンケートの実施
- ・夜間、休日開催等の傍聴者増への実践など

**西尾市の外国人施策について**

はかりませんか。

○ご指摘のとおり、避難には最善を尽くすことが重要です。今後とも、津波警報が解除されるまでは、避難行動を続けることの周知に努めていきます。

問 多文化共生の推進のためにどのような施策をしていますか。

○多文化共生推進協議会を設置し、多文化共生についての協議を行っています。また、下部組織として外国籍住民及び市職員等で組織する外国籍住民会議を設置しており、外国籍住民が抱

**高野 邦良 議員**

ともにいきる人と自然、  
そして暮らしについて

えている問題等の共有化に努めています。この協議会での意見を踏まえた成果の例としては、昨年度、外国籍住民のための生活ガイドブックを作成しました。また、外国人相談の開設や窓口におけるパンフレット等の多言語化、通訳の配置などを各課において多文化共生に関する取り組みを行っています。

問 「三河線もなくなってしまうし、くるりんバスも来ません。年もとってきまじし、ふっと不安になります。」北のはずれに住んでいます。

○みなんでお願いにきましたが、こちらには、回ってもらえないのですか。これらの声に応えて、たとえば、南中根町や巨海町などにまで、くるりんバスの路線を拡大しませんか。

○市民からは、停留所設置の不均衡に対する指摘があります。人口集積度や住民ニーズ等をふまえ、バス路線の変更や拡充も検討していきます。

問 養護学校設立要望が、多くの署名とともに寄せられ、議会で何度も議論されました。今も関係者の切実な声が届いています。実現への見通しはどのようですか。

○教育委員会としては昨年度も県に出向き、養護学校設立の可能性を模索してきました。しかし、設立の実現については、財政面や人的措置の面において極めて厳しい状況です。今後、県や県の動向を見きわめ、養護学校設立も視野に入れた特別支援教育のあり方を求めていきます。

問 障がい者の高齢化を心配する家族の悩みは深いものがあります。それを和らげる施策と啓蒙はどのようにしていきますか。

○市が委託する相談支援事業所の相談員が、随時相談に応じています。ま

た、障害をもつ方の住まいの確保と生活支援を行う「グループホーム・ケアホーム」事業、本人に代わって資産の管理や介護のサポートを行う「成年後見制度」の利用支援事業などを実施しています。また、相談事業所や地域自立支援協議会の活用により、保護者への周知・啓蒙に努めています。

問 西尾市憩の農園を、「道の駅」へと進化させてほしいという意見が多くあります。実現への動きを加速しませんか。

○農業副都心構想の中に、西尾市第2の道の駅の整備があります。建設委員会で検討していきます。

問 「愛知こどもの国の振興策は、個性化と多彩化に富んだものになりますか。

○愛知こどもの国については、本年3月に県が発表した「愛知こどもの国の見直し案」の中で、「自然・環境」、「多世代交流」、「地域協働」の3つを柱に掲げ、施設の活性化を図るとされました。これを受け、県、公益財団法人愛知公園協会、市に加え、来年度に指定管理者をめざすNPO法人フロンティア西尾や、一般社団法人西尾青年会議所、地元の商工観光関係団体で構成する「愛知こどもの国地域協働事業実行委員会」を5月に立ち上げ、この秋に魅力ある事業を実施すべく準備を進めています。



## 6月定例会で可決された議案



★西尾市体育施設の設置及び管理に関する条例の制定について	西尾市体育施設の設置及び管理について必要な事項を定めるため、新たに条例を制定するものです。
★西尾市都市公園内体育施設の管理に関する条例の制定について	西尾市都市公園内体育施設の管理について必要な事項を定めるため、新たに条例を制定するものです。
★西尾市市税条例の一部を改正する条例の制定について	地方税法の一部を改正する法律（平成25年法律第3号）等が公布されたことに伴い、改正するものです。
★西尾市介護保険条例及び西尾市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例の制定について	延滞金の割合を引き下げるため、改正するものです。
★土地区画整理事業に伴う町の区域の設定について	西尾吉山土地区画整理事業の施行に伴い、町の区域を設定するものです。 （地方自治法第260条第1項）
★財産の取得について	消防緊急通信指令施設を更新整備するものです。 （西尾市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条）
★平成25年度補正予算（第1号）	西尾市一般会計補正予算（第1号）
★平成25年度補正予算（第2号）	西尾市一般会計補正予算（第2号）

## 6月定例会に出された請願書・陳情書

★住宅リフォーム助成の実施を求める請願書	西尾市本町18 牧野次郎 （賛同者401人）	（紹介議員） 前田 修	不採択
★最低賃金の引き上げ、公契約条例の制定など働く者の権利を守り、公務・公共サービスの充実、憲法擁護・核兵器のない世界を求める陳情書	名古屋市北区柳原3-7-8 春の自治体キャラバン実行委員会 代表 樽松佐一		不採択
★最低賃金の引き上げ、公契約条例の制定など働く者の権利を守り、公務・公共サービスの充実、憲法擁護・核兵器のない世界を求める陳情書	名古屋市北区柳原3-7-8 春の自治体キャラバン実行委員会 代表 樽松佐一		不採択

## 6月臨時会で可決された議案

- ☆人権擁護委員に、内藤政枝氏を推薦することに同意しました。
- ☆西尾市監査委員に、田中弘氏及び手嶋英夫氏の2人を選任することに同意しました。
- ☆西尾市公平委員会委員に、辻村義之氏を選任することに同意しました。

★市長、副市長及び教育長の地域手当の特例に関する条例の制定について	暫定的に市長、副市長及び教育長の地域手当を支給しないこととするため、新たに条例を制定するものです
★財産の取得について	小中学校のパソコン等を整備更新するものです。 （西尾市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条）

～ 議会MEMO ～

★議会とは

定期的に関く「定例会」と必要に応じて関く「臨時会」があります。西尾市の定例会は年4回で3月、6月、9月、12月に開かれます。

★本会議とは

本会議は、議案などを審議し、議会の意思を決定する重要な会議です。執行機関に市政全般に対しての質問を行い、市政の進め方を明らかにしたり、提出された議案について説明を受け、質疑を行い、意見を述べて賛成、反対を明らかにしたりします。

★委員会とは

議案などは最終的に本会議で可否が決められますが、市政は範囲が広く内容も複雑なため、いくつかの委員会を設け、専門的に審査します。

委員会には「常任委員会」、「議会運営委員会」、「特別委員会」があります。

- ① 常任委員会…西尾市議会には、企画総務、経済建設、文教、厚生 の4つの委員会があります。
- ② 議会運営委員会…議会運営をスムーズに、能率的に行うための委員会です。
- ③ 特別委員会…必要がある場合に特別に設けられる委員会です。

9月定例会市議会

2日(月)本 会 議  
3日(火)本 会 議  
4日(水)本 会 議  
5日(木)本 会 議  
9日(月)厚 生 委 員 会  
10日(火)文 教 委 員 会  
11日(水)経 済 建 設 委 員 会  
12日(木)企 画 総 務 委 員 会  
17日(火)・18日(水)・19日(木)・  
20日(金)決 算 特 別 委 員 会  
10月1日(火)本 会 議  
開会時間は午前10時です。

\*本会議は議場  
\*委員会は第一委員会室

議会テレビ中継のお知らせ(予定)

放送日

9月26日(木)(9月5日一般質問)

ケーブルテレビ「キャッチ」

デジタル106CHで放映

【放送開始時間】

いずれも18時～です。

インターネットで議会を見てみよう

西尾市議会ホームページから

アクセスできます。

ぜひご覧ください。

議場の見学をしませんか?

議会をより身近に感じていただくために、議場見学を受け付けています。

町内会や老人会の行事、ご家族、ご友人同士でお誘い合わせのうえ、お気軽にお越しください。

- 1 見学可能日・時間  
月曜日から金曜日 午前10時から午後4時まで(見学所要時間30分程度)  
※ただし、会議等開催日及びその前日を除きます。
- 2 見学内容  
本会議場、委員会室をご覧くださいながら、議会のしくみをご説明します。
- 3 申し込み方法  
見学希望日の5日前までに議会事務局へ電話(Tel.0563-65-2182)でお申し込みください。



編 集 室

年4回の議会が終わると発行される「議会だより」。市民の皆様はどのようにご覧いただいていますか。

議会だよりの多くのページを占める一般質問のコーナーは、議員が一時の質問時間の中で聞いたこと、伝えたことを議員が要約、抜粋し、そのまま紙面にしています。議員一人一人の熱い気持ちが詰まっています。

紙面の都合上、理解しにくい議案や可決、否決になった経緯までは十分にお伝えできません。別記のホームページをご覧ください。別記のホームページへのお問い合わせ、議員委員会への傍聴をお待ちしています。「議会は何をしているの?」とよく尋ねられます。市民の皆様にはわかりやすい議会、身近な議会をお伝えできよう、「議会だより」の紙面を工夫し、進化していく予定です。引き続き「議会だより」をご愛読いただきますようお願いいたします。

議会だより編集委員

◎ 稲垣 正明 ○ 前田 修  
中村 健 松崎 隆治  
山田 高生 大塚久美子  
本郷 照代 永山 英人  
西尾市議会議会だより編集委員会

電 話 65-2182  
F A X 54-0311

■ホームページ(<http://www.city.nishio.aichi.jp/>)で、本会議、委員会の会議録(質問者、回答者のすべての内容)が閲覧できます。